

## 1. はじめに、目的

諸問題について生活次元でどう受け止め対処しているかを、あちこちのコミュニケーション場を覗き、声を集めると共に、これらを整理分類してテーマ毎にまとめる。

対象は、私の関係する世界のしかもごく一部。皆さんの世界のお話と共に内容を深めたく存じます。

(1)なぜコミュニケーションをテーマに選んだか。理由は三点。

・第一に**コミュニケーション環境が軋みぎみ**；

何となく構えてしまうのでコミュニケーション下手。人間関係うっとおしいのでコミュニケーションもそこそこに。しゃべらなくても物が買えるしIT利用も。

・第二に**コミュニケーションが人間性を楽しみ充実させる行為**；

そもそもコミュニケーションは人間関係・生活環境を充実させる大気のようなもの

・第三に**世の中を動かすエネルギーが市民(生活)に宿る**；

市民生活での日常コミュニケーションにはエネルギーが満載。社会システムの受け止めや対処には上から固定化(流れに乗せる)に対して市民同士でレベル・グレードや分野の違い関係無しに率直かつ自然体のコミュニケーションは本来健在なり。

(2)まずは

・健全なコミュニケーションの条件とは **確認のため**

担い手の周辺環境の安心から。安心感ある場の設定。

・コミュニケーション場にて声の数々

どんな場でどんな内容の話が交わされているのか。

・生活次元からみる社会システム。声の数々から

生活次元(視点)から見えてくる社会システムがコミュニケーションの数々に反映

(3)着地点は

・今回は結論や方向性を見出すことせず。

・諸問題について市民の考えがコミュニケーション場での膨大・多様な声に現れているので、これを集約し議論によって練り上げる。皆さんからの各世界のお話とともに。

・これをもってまとめとしたい。

・追記：AI が意思を持った場合にはAI と人間とのコミュニケーションが議論となろう。

## 2. コミュニケーション概論 周知のことを述べる。ステップ下さい

### 2.1 コミュニケーションとは 少し理屈を

(1)定義 語源はラテン語のコミュニケーションで共有するという意味

・人間が意思や感情や思考を互いに伝達しあうこと。

(2)コミュニケーションの成立のための要件

・場、相手、生活次元のバックグラウンド

・場；互いにゆったり・安心感を持つこと可能。

互いの距離を適度に設定可能

背景の雰囲気や互いの表情が下地に

話の内容：生活次元の体験・経験が下地に

### 2.2 コミュニケーションの構成

(1)内容

- ・日常生活：生活、健康、家庭、家族、食、等
- ・仕事、勉強、技術、芸術、学術、等
- ・人生、人間、等
- ・社会、政治、経済、時事問題、等
- ・他

(2)主体者と場所

- ・場所：家庭、地域、職場、学校、等
- ・主体者：家族、市民、市民と専門家、職業人、等

(3)状況と場

- ・商い
- ・教育
- ・仕事遂行
- ・談義
- ・日常会話
- ・打ち合わせ
- ・論議
- ・他

### 2.3 コミュニケーション場の構成

コミュニケーションを深めるには、**まとまった場が必要**となる。これには、勉強会や討論会、さらにはお喋り会などがある。なお、居場所論議が盛んではあるが、本来**居場所は何処にでもあり、それらが機能していない**ために、新たな居場所が必要ということである。この世の中、そうした居場所も求めざるを得ないのも事実であるが。

・集団と場

機能集団：職場、学協会、組合・連合会、趣味会等

共同集団：家庭、地域、

・空間として；集団に関する空間

街中や道も

・最近いわれる居場所：こどもの城、ユースセンター(青年期)、学生の街中たまり場、等

・場におけるつながり

ネットワークつながり：朝活、カフェ、等

地縁や生活つながり：近所や地域つながり

組織つながり：必要に応じた場(会議、懇親会等)

フリー：

・場の機能

場と時間の提供 →目的が明確なこと多し

生活内で自由に →街中、道にて、等

### 2.4 コミュニケーションの偏り 周知のことをあえて記します

#### 2.4.1 最近気になること

(1)さらりと交わすコミュニケーション

・仕事：仕事をする上で、チーム内コミュニケーション

顧客に対してコミュニケーション。ニーズ発掘のコミュニケーション

・人間評価のためのコミュニケーション能力

会社に役立つ能力のひとつ

・コミュニケーションも生産のための一道具のよう

・深く迫らず、表層的が多い

深まらないコミュニケーション

←余裕なさ、疲労困憊、忸度しすぎ

・政治談議を避ける

・市民運動談議をさける

- ・代わりに推奨されるのは競争に打勝つ目的遂行のコミュニケーション(差別化、営業等)

## 2.4.2 コミュニケーションの偏り

### (1)背後にある社会的制約

- ・人間の周りには風潮や社会通念あり。人間が風潮とか社会通念を作り上げ、逆にその風潮がカギトラインとなって人間の行動に助力もあれば束縛もある。
- ・社会から個人への作用は、教育を経て、社会通念として、村度感情、等。
- ・個人から社会へは社会意識の形成として。

### (2)コミュニケーションの偏りの要因

効率社会、管理社会、一律社会となると、個性が邪魔なのか。自己主張や相互尊重の姿勢は邪魔なのか。

コミュニケーションをも変質させるのか。

### (3)現実の様相

円滑や社会運営には市民の力の制御か。今はやりの標語は「今だけ、楽しく、満足」のよう。

## 2.5 談義の意義 じっくりコミュニケーションとして

- ・市民が議論するのを何か嫌う風潮があるのでは。議論しなくなったからそうなったのか、そうだから議論が少なくなったのかは不明。言えることは、議論イコール非難なのか。
- ・一部の人だけの思考よりも市民思考がいい。分かりきったことだから議論不要というロジック。一部の人の思考で十分という矮小的な考え。市民からの多様な可視光を市民にリターンすべきこと。談義の必要性はそこにあり。
- ・種々の問題に対して市民各人の世界が談義に滲み出る。だから面白いし、そこから次への展望が可能。

## 3. 楽しんでます 富山県内にて楽しみのいくつかの紹介

### 3.1 談義目的の居場所

富山県にはまとまったコミュニケーション場として、以下に掲げるものがあり、それぞれはカフェと(主に)呼ばれ、月一回程で実施されている。なお、行政主導で政治塾や創生会議などの討論場があるが、これらは本稿で扱うものとは異なっている。

- ・憲法カフェ：立山町 社会問題論議
- ・哲学カフェ：高岡市 哲学問題を論議、近代哲学が主
- ・歴史カフェ：金沢市 歴史問題を論議、古代や中世が主
- ・ワルトカフェ：魚津市 社会問題論議
- ・街中カフェ：上市町 話題を持ち寄りおしゃべり会
- ・街の語り場：富山市、街づくりの語り合い、非公開かつては以下のものもあった。数年程で閉店。理由は会の一人運営では人集まらずのことや議論のグレードを上げるとなかなか続けるのが難しいからである。
- ・朝活黒部：黒部市 2-3ヶ月で店じまい
- ・プロボカカフェ：富山市
- ・立山町をたのしも会：立山町の街づくり論議
- ・街かたり場：上市町にて街づくりを論議。

- ・Nプロカフェ：社会問題、地域問題を論議、高岡にて
- ・おへその学校：政治家育成、政治問題談義、

### 3.2 交流目的の居場所、朝活 朝活とカフェの資料参照

若者中心で知的交流を主目的、気楽な集まり。

- ・朝の会そのものが生活のリズムづくり
  - ・交流→仲間増える、生き方考
  - ・勉強→知識増
  - 内容：スキルや情報、生き様、演奏、作品紹介、等
  - 参加者：好奇心旺盛な方々
  - ・朝活富山 2009年10月～ 週2回 ビジネスや人生
  - ・朝活呉西 2010年から 週1回 勉強会
  - ・朝活上市 2014年11月～ 月2回 交流会 生き方
- 以上の他に朝の読書会、パソコン教室、スポーツ教室もある。省略す。

### 3.3 交流目的の居場所、カフェ 資料参照

時間的に余裕のある方々を対象。知的交流を目的とした気楽な集まり。

- ・時間を有効活用する
- ・交流→仲間増える
- ・勉強→知識増
- 参加者：好奇心旺盛な方々
- ・街中ゆったりカフェ 2013年11月～ 週1回
- 内容：郷土史、時事問題少し、絵画作品紹介、音楽、等
- ・他にもゆったり系のカフェはあるかと。

### 3.4 街中でおしゃべり 「おしゃべりのススメ」資料参照

2017年に老人会で皆さんと共におしゃべりを一過性の企画とはいえ楽しんだ。

皆さんとの話し合いでは、しゃべる機会やししゃべる関心事が少なくなってきたこと、この世の中しゃべらなくてもすむことが多くなってきた。そんなことだから、日常を楽しむためにしゃべるチャンスを増やしもつとししゃべりましょう、と結んだ。

実際に話をしてみても以下のことが印象的であった。

- ・街のいたるところに休憩所あり。これも居場所に。
  - ・道や店での立ち話もいいものである。
- なお資料は、おしゃべりのなぜ、効用は等を説明。

### 3.5 懇親会

- (1)趣味カブ：スポーツ系や街づくり系がよく開催。  
(月1回のもあるが、多くは年3-5回程)
- (2)職場飲み会：昔は奥の所では月一回程の頻度であったが、最近は、忘年会だけとか新年会だけとかが多い。職場でのコミュニケーション嫌いな方が増えたためのよう。
- (3)学協会の懇親会：専門にもよるが、技術系では昔は月一回の懇親会が盛んであった。今は年1-2回程で。

### 3.6 飲み屋さんでの懇親

昔は、一人酒や仲間酒というものがほぼ毎日。酒場では亭主や女将とのコミュニケーションも楽しみであった。今は気のあった者同士でも飲みになくなってきた。ましてや一人酒の方はまずは見かけない。

## 4. コミュニケーション場において *種々声掲載で臨場感出す*

本章と次章においては、関心ある事項について著者が介在していた事例を(富山県内)場毎に列挙。ただし、すべてのケースを網羅していないことを断っておく。なお扱った場は、身の回り、仕事、目的付与の場の三種。

### 4.1 日常の身の回りであれこれ

#### 4.1.1 年代ごとに *ごく短く*

##### ▲家庭では

- ・子どもの話し、学校やご近所さん、教育や健康、ジャー
- ・若い家庭なら将来計画

##### ▲若者なら

- ・異性、職場での仕事、上司批判、遊び、愚痴

##### ▲年寄りの主な会話

- ・男性なら、体の不都合の話、
- ・女性なら、孫の話、嫁の話、

#### 4.1.2 階層毎にそれぞれ

##### ▲地域仲間 *ママとも*

・子どもを中心にしてつくられるつながり、PTA 関係やママが抱える問題

・関心事は、子どものこと。成長具合。学校の教師のうわさも。成績は話題にすることはまずなし。

##### ▲職場仲間

職場環境を議論。愚痴の言い合いも。環境改善も

##### ▲勉強仲間

・学生の頃、置かれている状況をもとに昨今を語り合う。

##### ▲カソ仲間

#### 4.1.3 地域の風土や気質のあれこれ

*富山人の気質、それを育む風土*

##### ▲郷土

- ・郷土は住めば都 ・郷土愛は有形無形にあり。
- ・郷土嫌いは人間関係こじれて。

##### ▲気質

・郷土の良さの認識には、地域民は「当たり前、普通、たいしたことない」と評す。他県の人にはびっくり。観光に来てほしくないのではなく謙虚な県民性の現れ。

・「どうせ、でも、しか」が気になる。身の丈思考ならいいが。

##### ▲お祭り

・祭りの起源は民衆の抵抗の象徴からとか。今は当初のいわれよりも浮かれ気分を満喫。市町村の各お祭りでは、地域民の同窓会的なつながり(地域のつながり)そのもの。

・最近のお祭りには現代風アレンジ。活力は抜群。これを活気とみるか様変わりとみるか。八尾おわらは必死に伝統を守っている。

#### 4.1.4 飲み会でのあれこれ

*滑らかなコミュニケーションで本音も*

##### ▲飲み会の目的

・組織内での飲み会は親睦。祝賀。等

・飲むことが目的でなく、まとまった時間にまとまった方々とまとまった話ができるのが飲み会である。自分の考えを言い、ほかの人の話を聞くといったしゃべり場が飲み会である。

・町内会の飲み会は地域民日頃の疎遠だから年一回は。

##### ▲飲み会のそれぞれ(職場、同業、甲乙関係、カソ等)

・**職場系**では：人間関係を深く求める場合とそこその場合とがある。特に小規模組織なら、同じような顔ぶれで親睦は必要なしともいう。

・**同業者**の場合では：展望地を明かしたくもないし、情報共有でも損をしないように構えると、うわべの付き合いが主。それでも長年付き合いと、きわどい情報交換もあり、お互いのポジションに共感を持つようになることが多い。しがたないサリマン、どこでも一緒というある意味連帯感がままする。

・**甲乙関係**：昔はそんな関係でも飲む機会は多かった。今はなし。なかには、官庁の方が業者の考えも聞きたいからという素朴な行動も怪しく見られる今日この頃。

・**同窓会**では：大学同窓会では官庁マは業者会員出席を気にして欠席。業者との接触を如何なる時にも避けるのが常となった。

・**趣味のつながり**で：現役とシルバーでは取り方が異なってくる。現役系では、利害関係の無さがいいとか趣味の話にのみ没頭できるとか。それでもたまには仕事の話が出ることもある。

一方、シルバー系では、有り余る時間を有意義に趣味や習い事に当てたいという。そんなところからの気ままな会話が続く。

そんな世界を共有して互いに磨きあうという。時には、人生論、生き方一般論が多い。企業運営などの話はない。

・**地域**(町内会)場合：義理で出てくる地域の方々。当たり障りの無い話で済ますこと多し。波風の立たない近所付き合いが大前提ともいう。会を牛耳る幹部のみが元気で後はしらけ。面白くないから行かない人が増。地域の人と仲良くなってもリトなし。またせつかくの休みにゆつくり出来ないとの理由で欠席。

##### ▲飲み屋、店主の個性発揮

・客とのコミュニケーション：男客ならギャンブル(パチコ、競馬)、女、多くは客に気遣う会話だが。

・個人的な店主に集まる個人的な客：客層が主人好み。

初対面同士でも会話が成立。野球やサッカーの酒場でも同じこと

##### ▲飲み屋模様

・**職場仲間**ではモヤを**発散し元気に**：愚痴が多い。これは発散行為。元気になるのがいい。これまでは後輩の愚痴を先輩が聞いていたものだが、そんな機会も少なくなってきた。

・**飲み屋にて弱いものいじめ**あり：発散はいいが、店員に今で言えばパワハラ。店主やお上を馬鹿にして越にいつて

いる人がままいる。気丈夫なお上は「お代は要らないから出て行け」と一喝。

## 4.2 仕事の上で、ビジネススキル、付き合い方なども

### 4.2.1 自己啓発、ビジネススキルアップとして

#### ▲コミュニケーションもツール

・コミュニケーション能力も人物評価対象のひとつ。しかも組織の目的に応じた能力だけに限定。

#### ▲コミュニケーション教室

・コミュニケーションが重要といわれればいわれるほど、スキルによる能力磨きのニーズが高まり、これに応えるコミュニケーション教室があちこちに来ている。特にビズ初世界では、相手のニーズを知るためのコミュニケーション、営業力を高めるコミュニケーション、組織内での従業員管理のためのコミュニケーションなど、様々な展開がなされている。

#### ▲自己啓発教室

・いわゆる一般の自己啓発教室とは、コーチやインストラクターのガバ(や指導)のもとで受講者が啓発スキルにより啓発実践を行う場である。啓発を目的として学終や練習の場としては無いよりあったほうがいいが、自主性のもとで触発がなされるべき。その点、朝活は自己啓発を主として、これを皆さんとの交流で磨くところに大きな意味がある。

## 4.3 知的活動あれこれ

### 4.3.1 講演会やシボでは

*双方向の会話成立困難、受身姿勢が問題、様子見思考*

#### ▲参加者の姿勢、質疑応答からみる

・講演会では講演終了後の質疑応答が無音状態に。またシボジウムでもフォーからの発言が極めて少ない。富山の人はおとなしいんですね、とよく言われている。そんな場で、質問でもしようものなら、周りから白い目で見られる。「質問ルールいちゃもん」という捉え方がある。

もともと、多くの方々は、参加して聞いて帰ることが目的であるから質問などということはありません。

・講演者やパネラーは聞いている聴衆各位がどう思っているか知りたいと言われるが、それでも聴衆は音なし。

・講演会やシボの後に懇親会があり、一般人も参加できる場合が多いが、一般人はたとえ出席ですかといわれても断りすぐ帰るのが常識という。このことを知らない方が場に出たら、その後は周りから非難ごうごう。

#### ▲実のある論議

・お題をいただいて小話を作るといった落語家じゃないけれども、聴衆からの論議はまず無理。平生から論議してポテンシャルを高めるか、まっさらな気持ちで自分の思うことを言うか、この二方法でないと、論議が続かない。

### 4.3.2 懇談会あれこれ

*深い懇談を避ける傾向*

#### ▲懇親

・2000年代頃からか、県庁のある部局でも部内の忘年会もしくは新年会を毛嫌い。好き者同士で飲みに行った方

がいろいろと。

・小規模事業所では、メンバーが代わり映えしなく同じように年を取っていくので、出席せよといった強制力の働く忘年会もしくは新年会は負担に。しかたなく参加。ひどいところでは、不参加の場合、理由書提出を強要。

#### ▲異業種交流

・身内同士で固まって、他の方々とは混じろうともしない。たとえ交じり合っても、名刺交換が主。話し込むことはまず無い。理由は、そこまでの情熱とエネルギーが無いように、視野を広げて会話する素養が乏しいからのよう。  
・若者主体の異業種交流では、若者が好奇心旺盛だから、話し込むことが多い。

## 5. コミュニケーション、内容別整理(関心事の談義)

社会システムにおける関心事について日常生活に滲み出てくる世相談義なるコミュニケーションに着目し、これを項目ごとに列挙する。

### 5.1 政治あれこれ、政治談議

*霞む政治視点の社会システムに、主権認識の育み困難*

#### ▲政治に関心示せなくなる諸要因

・変化望まぬ保守思考、お客は神様という(拝金)思考、もの言えば唇寒し(控えめ強要)、さらには、コスト至上主義(金万能)、理想理念欠如(考えること疲労なり)、などが定着。政治の視点が霞む。

#### ▲縁遠い、政治無関心の足元には

・長きにわたり抑えつけの結果か、流れに乗ると楽ゆえか。  
・政策施策論議がしにくい環境  
物言わずが美徳とか、批判が避難と混同されがちか。  
・教育もまたそんな風潮のもとに。  
・政治は投票だけというイメージの定着か。  
・一人が頑張らなくても恩恵受けれるなら何もせずがいい。

・政治家ならあちこち目立つ行動。街づくりで頑張っていると選挙に出るんですかと。市民運動も政党関与と誤解されがち。

#### ▲国民主権・市民主導

・現政権を選んでも国民という議論について、ひどいときには国民の無知だとも。国民を抑え込むかのようなシステムが用意周到なだけ。本質を見誤らないこと。  
・選挙に行っても世の中変わらないの声が多し。そういう風潮はつくられたもの。客観視点での観察が難しい。

#### ▲政治家も市民のはず

・小さな町では町民と町長の距離が短し。良くも悪くも町民。何だかんだで行政には町民の顔が見えようぞ。県知事のレベルになるととにかく縁遠い。

#### ▲街中で政治談義、名古屋にて

・70年代前半までは、大学のコンパでも自然と安保の話も。  
・それ以降、少しずつ政治論議を避けたがり、しまいに政治談議はほとんど頓挫。  
・70年代後半、政権政党支持が若者にも行渡る。

・意見が分かれる談義を避けるためか、自分の主張を抑えるためか、政治には無関心や人前でしゃべらなくなる  
こと多し。

## 5.2 社会談義

### 5.2.1 社会通念

*通念の作られ方、受け止め*

・社会通念も人間の色分けに一役買っている。お金万能主義。特徴的人間の排除。  
・社会通念は何処で作られ、どう伝わり定着していくのか。

一連の過程では、教育を経て、社会通念を受け入れた  
り付度感情をもったりするのだろうか。

・これって変と思う考えが沸き上がるようコミュニケーションで共有化。

### 5.2.2 社会倫理

*倫理の捉え方、経済性と倫理とのバランス、倫理教育*

・ものづくりには、安心安全よりも過度のコスト優先。  
・事故や不都合が生じても対症療法。倫理上問題にせずの風潮。

新聞沙汰になってようやく出来るところのみ改善。プロ  
ク塀の倒壊事故など。

・倫理は無力なのか。倫理は経済性を超えられないのか。  
・倫理とは、これしてはいけない、あれしてはいけない  
だけか。どんな社会がいいのか、どうつくっていくのか、  
をいうのでは。

・倫理教育では、内部告発まで教える大学教員もいる。

### 5.2.3 市民問題

*市民の発議と行動、教育*

#### (1)教育

・政治のひずみの大元は市民にありという議論多し。市民の健全行動を抑えるための社会システムが市民に悟られる(撤廃される)ことなく機能しているだけのこと。

・特に教育が歪んでいる。教育システムの目的は社会の円滑な運営にあり。極論すると批判精神を持たない流れに乗る人間を育てること。教える側の現場教師にも目的遂行の圧力がかかる。

・津々浦々何処からでも声を上げていくことに。

#### (2)市民運動 別添資料参照

・市民運動も政党関与と誤解されがち。無関心にさせられがち。

#### (3)組織人は組織論理に染まりがち

・企業人は若いとき国民のため地域のためという発想。  
課長クラスに昇進すると企業論理を第一とする。利潤上げて何ぼの思考であり行動であるとのこと。

## 5.3 専門家とのあれこれ 資料参照

*市民により添えるのか、専門家都合を優先*

### 5.3.1 専門について

▲専門家に対して市民の思い

・安全基準につて国が国民ファーストのはずを前提と思う市民。  
・国は財界を優先し、国民の健康や幸福は二の次か。  
・市民への真摯な説明なし。説明を丁寧にとというのが結論ありきの説明はただの押し付け。丁寧とは説明しましたの阿バイ。

▲市民と向き合う民間専門家

・民間コンサルのレベルが多忙を理由に低く勉強まで手回らず。  
・街づくり提案書もけ型の使いまわし。依頼先自治体名のみ替えての報告書多し。コピペは当然という。

▲行政

・行政はコンサルの仕事をチェックできなくなっている。能力低下。  
・審議会や委員会では有識者の貴重な意見がままあるが、多くは行政の都合に合うようなものばかり。原発規制委員会のよう。

・コンサルからの成果をもとに事業推進する場合、最近はおバコとか事前説明会と言うが、機能しているのか。

・行政の施策について、何処でどう発議され、どういう過程を経て、行政組織に乗せられていくのであろうか。

県の開発計画について、例えば厳冬期立て山観光計画は先に実施ありきの結論では。こうした場合、県の審議会が計画を練り(行政のチーム)、決まったら、実施に向けて案を具体化していく。申し訳程度におバコ実施だが、問題点指摘が多少あるだけ。根幹の計画案については市民からは何の意見も求めず。例え上がってきた意見は反映させず。いかな態度であらうか。

### 5.3.2 専門の思考

(1)AI 議論を人間世代で展開 良く知られていることを列挙

・AI では膨大なデータを統計処理して与えられた問題の答えを出している。なぜそうなるのかの推論はできず。

・AI 論議で操る側と操られる側の対立があまり語られず。

・便利さのみがグローバル。

・AI 議論を経て人間の本质を見直すべし

・AI が人間の肩代わりは思考についても。

人間は創造仕事に集中可。それだけでいいのか。

労働は本能であり、体の機能健全化に寄与。

労働の捉え方が歪む。

#### (2)専門家思考

・物事を単純化するあまり、重大なことの切り捨てあり。

・対象を線引き。想定内と想定外にわかる。

・人間行動や人間性を数量化して数量世界で処理・判断。

・計算機処理に頼り、結果の評価ができず。思考力低下。

計算機処理なら間違いはないという計算機信仰あり。

#### (2)技術者の考え方

・まじめに仕事をすればするほど狭く深くの考え方。

・仕事の社会性は問うことあまりなし。

・システムの整備によりルチワーク多し。技術者自らの裁量が困難。特定の人間に独占だが、それも危うくなりがち。

## 5.4 災害あれこれ

*日常から備え、人災として対応、設計基準強化*

## ▲災害

- ・災害は人災。
- ・専門家は想定外と言いつつも、想定外の対処を考えず、すべてを救う必要なしも基本考あり。危険負担なのか。
- ・災害対応は被災者の生活再建も。ようやく考慮だ。
- ・仮設住宅でも居住性を高める。冬場は結露で壁がズブズブ。

## ▲防災

- ・県のセシヨナリズム。石川県うち濃断層が富山県に影響大。しかし行政は他県の断層だから検討不要と長きにわたり突っぱね。やっと昨年検討完了。
- ・震災と原発災害対策には地震災害とは切り離して検討。大丈夫か。今どうなってるかは未確認だが。

## 5.5 ほか

### 5.5.1 農

#### 安心安全な農

#### ▲農作物 以前の憲法が議論有り

- ・作物の良さを見かけで判断。成形かどうか色はどうか。
- ・土付着は汚い。洗うのが面倒。野菜では土付着は汚いと。
- ・着色剤、防風剤、農薬→生産量増大、腐らずきれいな色
- 当時は行政が危険行為を許すはずなしの思い。
- ・遺伝子組み換え
- ・理屈は大量生産により職を確保というが。

### 5.5.2 システム

#### 社会システムの偏りイコール不備・不都合

#### ▲技術

- ・人間の基礎能力(思考、感覚)が技術発展により鈍化傾向。基礎能力を機械に置換えることが技術の使命なのか。

#### ▲若者の保守化傾向。

- ・若者だけの責任ではなく、そんな若者をよってたかつて育成の教育や社会意識が問題。
- ・個性や創造性重視といっても組織内での調和のもとでという。

#### ▲管理社会では思考そのものも管理。

- ・なれやあきらめによる参画意識の低下へ。
- ・思考不要社会をめざしてムード先行。(本質よりもムード)

## 6. おわりに

コミュニケーションは何のためにかがより一層問われている。にもかかわらず、コミュニケーションを仕事の一部に限定したり、わずらわしいと避けるといった風潮等がコミュニケーションを偏らせ続けているかのようである。根本的には社会システムの改善が待たれるが、ここではコミュニケーションをより楽しむことこそが生活の充実につながるとしたい。

そんな観点で、コミュニケーションについてまとめてみた。まずはコミュニケーションのそもそもを論じ、次に生活視点から世相談義をコミュニケーションとして声の収集・整理を行った。その結果、特筆すべき主張を以下に列記する。

(1)コミュニケーションは生活のうえでの本能的行動と捉え、これを楽しみとして人間性が育まれる。また、コミュニケーションについて、日常からごく自然にお喋りを自然体で楽しむことこそが健康そのものである。

(2)コミュニケーション環境の整備には安心かつ自由に語れる場づくりが肝要。これより自然体のコミュニケーションが可となる。

(3)市民の考えがコミュニケーション場での膨大かつ多様な声として現れ、市民の活力がみてとれた。事実、自由闊達な語り合いを目の当たりに出来た。

△最後に一言。健康的なコミュニケーションが津々浦々満ち満ちれば、世直しへの一助になるかと思っている。これからも、好奇心旺盛。面白い所には出かける。人がいれば会話する。そんなことを心掛けています。

## 付録 諸問題の源流について 私見

コミュニケーションの様相を振り返ってみれば、時々の世相が色濃く反映されている。これがコミュニケーションの深堀イコール世相談義につながる由縁であろう。根源的な問題について世相談義で浮き彫りにしたことを私見としていくつか列挙する。

### (1)社会システムが何となく重い感じ

- ・物分かりよさに慣れる
- ・ゆとりなし、流れに乗る

### (2)肥大社会での効率化や物事の均質化

- ・多様性も見せかけか
- ・個性や自主性を貫きにくい

### (3)複雑化のもとでの物事のブラックボックス化

- ・深く考えない風潮
- ・おまかせ主義になりがち

### (4)競争主義の下で

- ・疲れが目立つ
- ・今さえよければになりがち

### (5)商品先行の主義

- ・ものやこと、何でも商品、サービスも
- ・物の価値よりもフィーリング、物を大切にしない
- ・ムードに乗せられざみ(売らんがため)

### (6)特定の課題

世相談義で特に重要な問題にもいつかチャレンジしたい。

- ・人間の基礎能力が技術発展により奪取されざみ。

技術にあり方論考が不足気味。

- ・若者の保守化傾向。若者だけの責任か。

- ・管理社会は思考そのものも管理。

- ・なれやあきらめによる参画意識の低下へ。

- ・思考不要社会をめざして

ムード先行社会。本質を包み込むムード。

### (7)社会の日常意識

本稿の目的を超えてしまうが：世相は結果的に社会における日常意識そのもの。社会制度の不具合やひずんだ構成のもとでは、市民意識と社会意識の乖離をみる良い機会が世相談義かと。

### (8)積極的対行動として

- ・市民主体の市民運動：専門家も含め幅広い支援が要。
- ・市民と専門家関係：専門でも両者対等。専門家は市民のパートナー